



小学生の疏水学習(老ノ口分水所(おいのくちぶんすいじょ))

【普及啓発・広報編】

case  
08

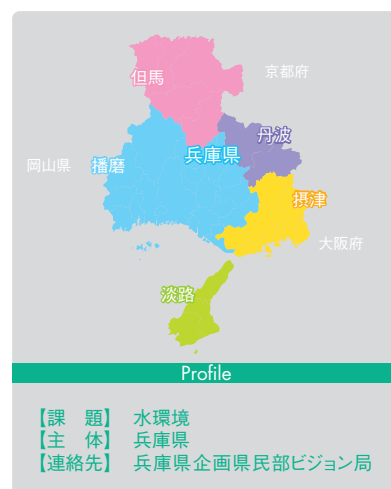
(兵庫県)

# 水、さと、まちの共生

水を知り、水を活かし、水に備える

美しい水辺景観と環境の保全、水を活かした地域づくりなどの取組の成果により、県内で、水の郷百選に3地域、疏水百選に3地域、ため池百選に6地域が選定されています。また、水にまつわる祭りや伝統行事、美しい風景がたくさん残されており、地域固有の風土が兵庫の多様性を形成しています。河川水に育まれてきた和紙製造などの伝統産業も継承されています。

兵庫県は、県土のほぼ中央を東西に縦走する中国山地によって、南北に地勢や気候が大別されています。また、淡路島や家島諸島などの島があり、多様な風土の上に多彩な人々の生活が営まれ、「日本の縮図」とも評されています。兵庫県は、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五つの国からなり、それぞれの地域には気候、風土に培われた生活があり、過去から現在に至るまで、生活を支えてきた川の流れを始めとする水辺があります。



2020

2010

2000

## 計画の概要

兵庫県  
ひょうご水ビジョン  
みず、さと、まちの共生  
「水を知り、水を活かし、  
水に備える」

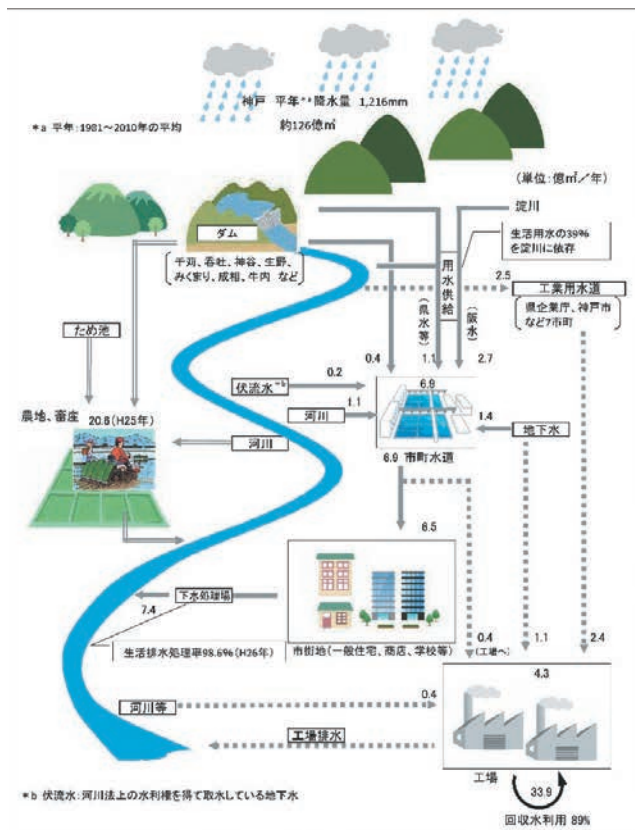
### これまでの取組

- 2002.5 「新兵庫県環境基本計画」策定
- 2004.5 「ひょうご水ビジョン」策定
- 2008.12 「第3次兵庫県環境基本計画」策定
- 2012.4 「総合治水条例」制定  
「新ひょうごの森づくり」スタート
- 2014.3 「第4次兵庫県環境基本計画」策定
- 2016.3 「ひょうご水ビジョン」改定
- 2017.1 「兵庫水ビジョン」を流域水循環計画として公表
- 2019.2 「第5次兵庫県環境基本計画」策定

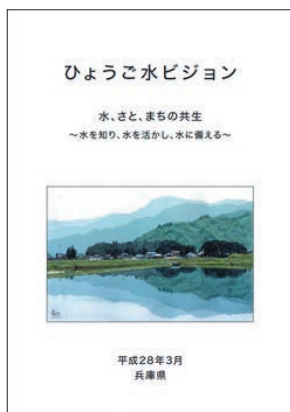
### ひょうご水ビジョン

「ひょうご水ビジョン」は、兵庫の水が県土の自然、県民の生活、地域の文化を育みながら美しく循環するための総合的な指針として2004年5月に策定されました。その後、社会情勢の変化や気候変動による集中豪雨や渇水の発生、本格的な人口減少社会の到来による水需要の変化、上下水道施設の老朽化など、新たな課題への対応を図るため、2016年3月に「ひょうご水ビジョン」が改定されました。自然環境や社会環境が大きく変化の中で、「水」の恵みにより成り立つ「さと」や「まち」にお

1. おいしい水をつくる
2. 水をもっと上手に使う
3. 水へのおそれ(畏れ、恐れ)を知り備える
4. 水の豊かさを守る、つくる
5. 水の文化、伝統を育む



平成24年度県内の水利用模式図



楮(こうぞ)の川さらし(杉原和紙)



乙大木谷(おつおおきだに)の棚田

ひょうご水ビジョン



# 流域マネジメント、ここが「鍵」

## 「鍵」その1 PR活動と情報発信

芦屋市では水道水の安全性やおいしさを市民に実感してもらうため、ボトルウォーター「芦屋の水」を配布し、水の飲み比べやアンケート調査を実施しています。また、小野市では安全で安心な水道水をPRするため、「おのみ〜ず」を作製・販売しています。

兵庫の「食」のブランド化を推進するため、水と関わりの深い「食」（日本酒・米・素麺など）をホームページで広報・PRするなど、兵庫の水の価値について情報発信する取組が進められています。ホームページに開設した「ひょうご水ステーション」では、県下の水源状況、水の作文コンクール、水循環に関する解説、「ひょうご水ビジョン」など、水に関する総合的な情報が紹介されています。



芦屋の水(左) おのみ〜ず(右)

### ひょうご水ステーション



水滴イラスト

- ・ 県下の水源の状況
- ・ 水の作文コンクール
- ・ 節水道場
- ・ 水の美しい循環をめざして
- ・ ひょうご水ビジョン
- ・ 神戸・阪神地域の水害論について
- ・ 節水カルタを送って頂きました



兵庫県HPより 「ひょうご水ステーション」(左)「御食国ひょうご」(右)

## 「鍵」その2 相互に對をなす関係の連携

兵庫県では、上流(水源地)と下流(農村と都市)、里(農業者)と海(漁業者)など、相互に依存し合う関係にある地域や人たちが、水を介して地域や社会を守る活動が活性化するように、連携した取組が進められています。

ため池では、豊かな海を創造するため、漁業者と農業者が協働して「かいぼり」(池干し)が行われています。森づくりでは、水源地域の森林を保全するため、漁業者と森林所有者との連携による活動が行われています。水道事業では、地域間で相互応援協定を締結し、災害時等の応急給水、早期復旧が可能な体制が整備されています。棚田の保全では、都市住民に直接耕作に関わってもらいながら棚田を保全していく棚田オーナー制



漁業者による森づくり



加太池(かたいけ)のかいぼり



岩座神(いさりがみ)地区における棚田オーナー



小学生による避難所井戸体験



水道災害に備えた応急給水実務訓練

度の導入、農作業体験、援農活動を通じて都市と農村の交流が行われています。





田んぼダムせき板

洪水時の流域対策として、ため池の貯水容量を高める対策や、水田の貯水機能を高める「田んぼダム」の取組、学校では雨水を一時的に校庭で貯留する取組などが進められています。

「田んぼダム」では、洪水時に雨水を水田に貯留するため、所有者が総合治水の取組として参画しています。川づくりでは、地域住民が河川の整備計画に参画し、完成後の保全活動等を行っています。公共施設の管理では、アドプト制度により、地域住民が河川や道路等の草刈りや清掃活動を行っています。

**「鍵」その3**  
地域住民と共に進める  
流域対策



河川愛護活動 夢前(ゆめさき)川(姫路市)

ひょうごアドプトパンフレット



県民による一斉清掃の状況

兵庫県では、森林を「県民総参加」で守り、育て、活かし、広げる取組を、「新ひょうごの森づくり」として進めており、その一環として森林整備に必要な知識と技術を身につけてもらう「森林ボランティア講座」を毎年開催し、森林ボランティア活動への参加、次世代リーダーの育成を進めています。現在では、1万3千人余りの森林ボランティアが里山林の整備活動を行っています。

小学校の総合学習の「ため池教室」では、ため池の持つ風土と自然を伝承するため、子どもたちに学習の機会を提供しています。また、「疎水見学会」では、農業水利に係る歴史を伝

**「鍵」その4**  
人材育成と  
ため池、疎水に見る  
生活文化の継承

新ひょうごの森づくり (H24~R3) の取組状況	全体計画 (R3末) A	R2末の目標 a	H24~R2の実績 b	うち R2実績	R2末目標に対する達成率 (b/a)	R3計画
(1) 森林管理100% (間伐)	67,800ha	61,776ha	33,658ha	3,641ha	54%	6,024ha
(2) 里山林の再生	4,000ha	3,600ha	4,386ha	679ha	122%	400ha
(3) 森林ボランティアリーダー養成	1,000人	950人	985人	80人	104%	50人
(4) 企業の森づくりの推進	46社	44社	39社	0社	89%	2社

新ひょうごの森づくり (H24 ~ R3) の取組状況



小学生の疎水見学の様子(御坂(みさか)サイフォン)



森林ボランティアリーダー養成講座の様子



森林ボランティア活動の様子

承するため、子どもたちに疎水開発に係る技術や当時の苦勞を紹介しています。



# 流域マネジメント、ここにも「注目」

## 注目1 新ひょうごの森づくり

「新ひょうごの森づくり・第2期対策」は、2012年より、森林は県民共通の財産であるとの理解のもと、「公的関与による森林管理の徹底」・「多様な担い手による森づくり活動の推進」を基本方針に、森林の公益的機能の高度発揮を図るため、間伐の推進や里山林の再生等を進めています。

多様な担い手による森づくり活動の推進として、森林ボランティアリーダーの養成と併せて、企業の森づくりを推進しています。

企業の森づくりでは、企業・団体等が社会貢献活動の一環やSDGs

の目標達成、社員の福利厚生を目的として行う森林保全活動をさらに推進させるため、活動地の幹旋や森林施業の指導など企業により森づくり活動の支援が行われています。



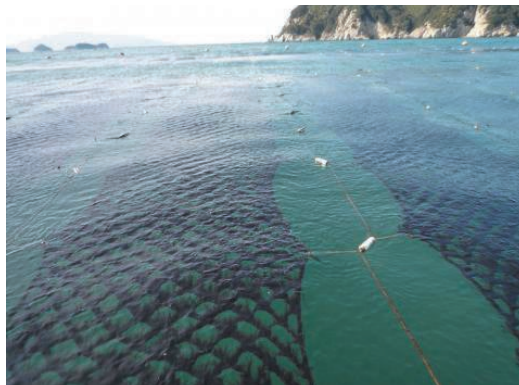
企業の社員家族による植樹活動

## 注目2 ため池のかいぼり(池干し)

兵庫県内は、全国的に見ても降水量が少なく、川から水が取れない地域では、農業用水を確保するために多くのため池が築造され、その数は全国一の約2万2千箇所のにぼります。ため池の多くは瀬戸内地域にあり、その半数近くが淡路島にあります。

農業用水が不要となる冬期には、ため池の水を抜く「かいぼり」が行われます。かいぼりは堤防や取水施設などの点検・補修を目的に古くから行われているものですが、ため池の水を放流することで、ため池の底に蓄積された栄養塩類が海域に供給されるという効果もあります。

東播磨地域、淡路地域では、ノリの色落ち対策として農業者に加えて漁業者がため池のかいぼりに参加するなど、連携と協働による交流活動が行われています。



ノリの養殖施設



「企業の森づくり」パンフレット



農業者と漁業者の連携と共同による「かいぼり」チラシより

## 活動の 効果

様々な指標を  
活用した  
フォローアップ  
調査

兵庫県はひょうご水ビジョンに関する多くの実践活動についてフォローアップ調査を行っています。様々な活動の成果が水ビジョンのめざす姿の実現に貢献しているのか検証するためのものです。

水ビジョンの基本方針には、取組を評価するための指標が目標値とともに設定されています。

### 《基本方針と指標の例》

1 おいしい水をつくる…

「間伐面積」など10項目の指標

2 水をもっと上手に使う…

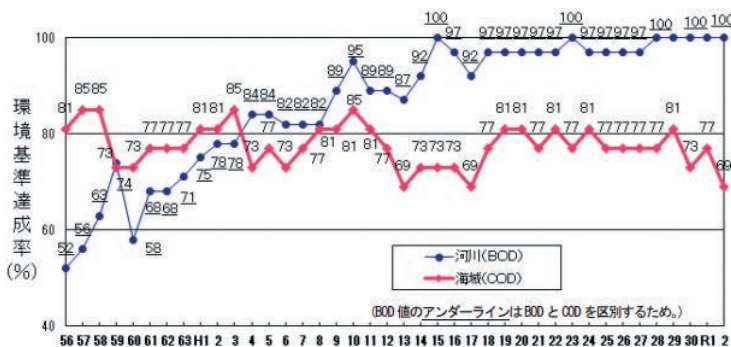
「避難所となる小学校への井戸設置支援箇所数」など6項目の指標

3 水のおそれを知り備える…

「土砂災害危険箇所」の整備箇所数」

など10項目の指標

兵庫県では、水質汚濁防止法に基づき国および県内の市・町と連携して公共用水域および地下水の常時監視を行い、その結果をとりまとめ公表しています。水質に関しては、水質汚濁防止法、瀬戸内海環境保全



環境基準達成率の推移

特別措置法による排水規制や生活排水処理率の向上等により、河川の生物化学的酸素要求量(BOD)の値は長期的に改善傾向にあり、河川は、高度成長期と比べると、見違える美しさを取り戻しています。一方、地下水は、工場又は事業場からの有害物質の漏えいにより揮発性有機塩素化合物、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素などで環境基準を超えている地点があり、汚染範囲の確定、原因究明を行い、原因者に対して浄化対策を取るよう指導が行われています。

## メッセージ

兵庫県企画県民部  
ビジョン局ビジョン課

### 取組を伝え広げていくポイントとは？

めざすべき姿である「水、さと、まちの共生」を実現するためには、すべての県民が理念や情報を共有し、一つ一つ取組を前進させなければなりません。

さまざまな主体の参加と協働に加え、積極的な情報発信、普及啓発・広報が重要だと考えています。

健全な水循環の維持・回復のため、県内イベントへのブース出展などによる普及啓発を実施していますが、これに加えて、水道水を地域のブランドとして高め、需要を喚起すること、質にこだわる飲料水づくりとそのPRも大切だと考えています。水に関わる祭事や昔話、水のさと・まちの風景、川遊びなど、埋もれている情報も収集し、広くPRしたいと考えています。

### 今後に向けて

水ビジョンを実現するための具体施策は多岐にわたり、市民・事業者・団体の連携については個別の施策により実施されています。このため、指標の達成度によるフォローアップを実施することが重要だと考えています。

水ビジョンに基づき行われた取組みの成果・実績に関して、指標の達成度によるフォローアップ調査を実施し、情報共有を心掛けていきます。



世界かんがい施設遺産「淡山疏水(たんざんそすい)」御坂(みさか)サイフォン